

足立区糖尿病対策アクションプラン 「歯科口腔保健対策編」

～子どもの頃から、野菜をしっかり噛んで食べる
健康な歯と口を目指して～



足立区
平成26年9月

目次

第1章 歯科口腔保健と糖尿病

1 糖尿病と歯周病は相互関係	2
2 歯科口腔保健対策は子どもの頃から	2
3 対策の期間	2

第2章 歯科口腔保健対策編の位置付け

第3章 足立区民の歯の健康実態

1 子どもの歯の健康状況	
(1) 子どものむし歯	4
(2) 永久歯のむし歯	5
(3) 未処置歯がある園児・児童・生徒の状況	6
(4) 経過観察が必要な児童・生徒の状況	7
2 成人の歯の健康状況	
(1) 歯と口の健康状態の満足度	8
(2) よく噛んで食べている人の割合	8
(3) 歯肉にポケットがある人の割合	9
(4) 歯周病と糖尿病等に関する知識の普及状況	9

第4章 歯の健康から進める糖尿病対策

1 対策の展開	10
2 重点的な3つの取り組み	11
(1) 0～15歳の歯科口腔保健対策	11
(2) 歯周病の重症化予防と糖尿病予防	13
(3) 関係機関等との連携と歯科口腔保健を担う人材育成	13
3 歯科口腔保健対策の推進体制	15
4 各取り組みの指標一覧	16

- 資料 -

1 会議委員名簿	19
2 平成25年度子どもの歯の健康に関する取り組みアンケート	20
3 保育園・幼稚園歯科健診票・結果票様式(新旧)	26

第1章 歯科口腔保健と糖尿病

1 糖尿病と歯周病は相互関係

足立区は、今後10年間の健康づくりを「糖尿病対策」に重点を絞り、区民の生活の質（QOL）を向上させるとともに、健康寿命の延伸と医療費の抑制を目指すため、「足立区糖尿病対策アクションプラン」を策定しました。その中で、糖尿病対策を **野菜を食べること・野菜から食べること 幼児期からの良い生活習慣の定着 糖尿病を重症化させない取り組み** の3つを基本方針として推進しています。

野菜を食べるためには、「歯と歯肉の健康」を保ち、よく噛むことが必要です。歯の喪失は、咀嚼力の低下を招き、軟らかい食品に偏りがちとなることで、結果として肥満や糖尿病をはじめとする生活習慣病が悪化しやすくなるなど、悪循環を生じさせます。

また、近年の研究により、糖尿病から歯周病が悪化するだけでなく、歯周病が糖尿病を悪化させるなど、「糖尿病と歯周病の相互関係」が明らかになってきています。子どもの頃からむし歯・歯周病の予防に継続的に取り組み、健康な歯と歯肉でよく噛んで食べる習慣を身につけること、そして「生活習慣病予防」「健康寿命延伸」を実現する区民が増加することを目指して、区の庁内組織および関係機関が連携・協働して取り組む「歯科口腔保健対策編」を策定します。

2 歯科口腔保健対策は子どもの頃から

歯と歯肉を健康に保ち、よく噛んで食べる習慣を推進するためには、子どもの頃からの継続した取り組みが欠かせません。そのため、子どもの歯科口腔保健対策として、特に以下のことに重点を置いた取り組みを進めます。

- 生えはじめの乳歯・永久歯のむし歯予防
- 歯みがきや規則正しい食習慣の定着
- 未処置の歯をもつ児童への受療勧奨強化

また、若い世代の糖尿病対策として、「野菜からよく噛んで食べる大切さ」や「歯周病と糖尿病の関係」を広く啓発し、生活習慣病等のリスク軽減を目指します。これらの対策を実現するため、歯科医師会や学校・保育園をはじめとした関係機関・職種との連携を強化し、それぞれの立場から「むし歯予防や規則正しい食習慣づくり」等の推進とそれらを実践する人材を育成します。

3 対策の期間

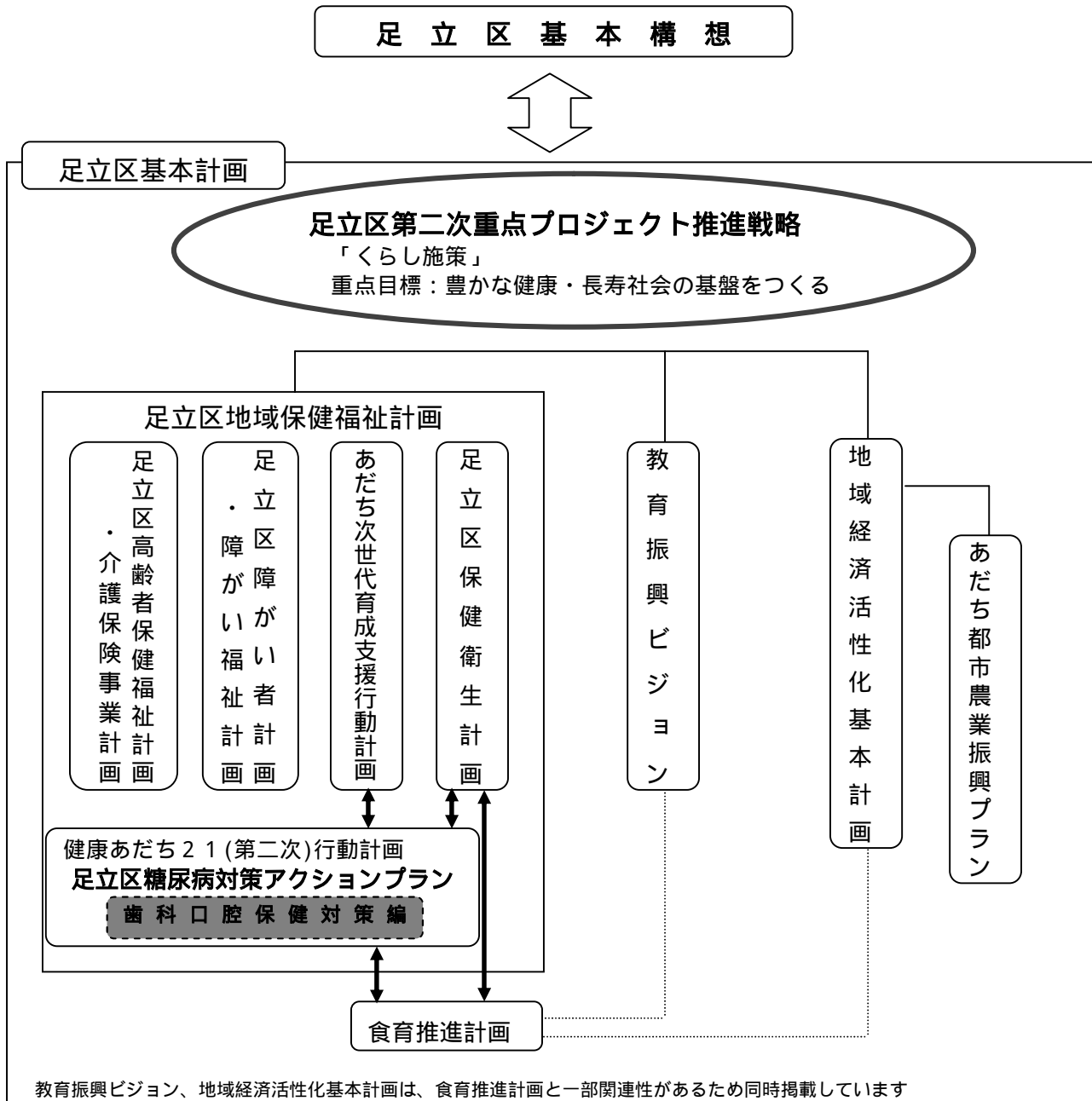
平成26年度～平成34年度の9年間

「健康あだち21（第二次）行動計画」「足立区糖尿病対策アクションプラン」に合わせて評価を行います。

第2章 歯科口腔保健対策編の位置付け

本対策は、「足立区第二次重点プロジェクト推進戦略」に位置づけられている「健康あだち21推進事業（糖尿病対策）」の一翼を担っています。

また、高齢者や障がい者の歯科口腔保健に関わる課題については、「足立区高齢者保健福祉計画」「足立区障がい者計画・障がい福祉計画」で担っていきます。



足立区地域保健福祉計画

足立区地域保健福祉の向上をめざし、施策を推進するための基本計画であり、【高齢者】【障がい者】【子育て支援】【健康づくり】の4分野ごとに策定された個別計画をもって一体と成す計画です。

第3章 足立区民の歯の健康実態

1 子どもの歯の健康状況

課題1 むし歯のある子の割合が特別区平均を大きく上回る

(1) 子どものむし歯

3歳児のむし歯のある子の割合

3歳児のむし歯のある子の割合は年々減少傾向にあるものの、特別区で最も高い状況が続いています(図1)。

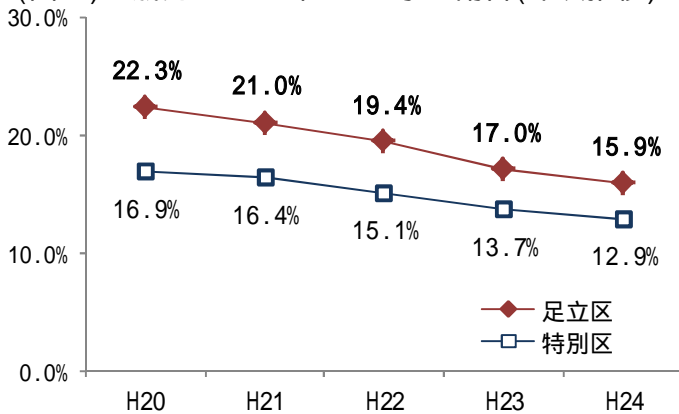
保育園児のむし歯のある子の割合

3歳児以降の伸び率が高くなっています。特に、4歳～5歳児では15ポイント増加しています(図2)。

小・中学生のむし歯のある児童・生徒の割合

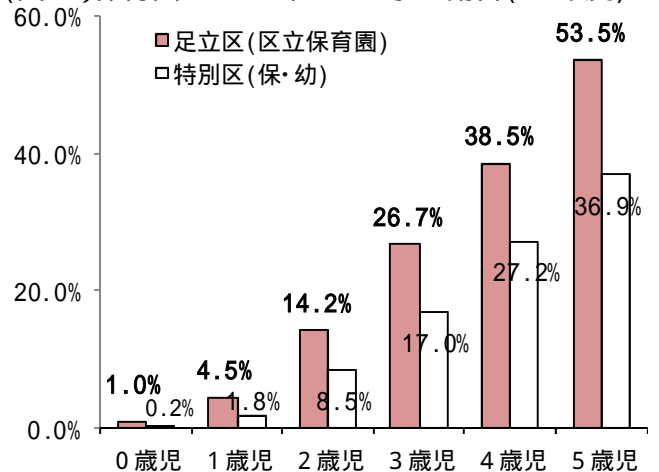
小学校の全学年が、特別区平均より6ポイント以上高い割合です(図3)。さらに、小学1～4年生は、むし歯のある子の割合が特別区で一番高くなっています(次ページ表1)。

(図1) 3歳児のむし歯のある子の割合(年次推移)

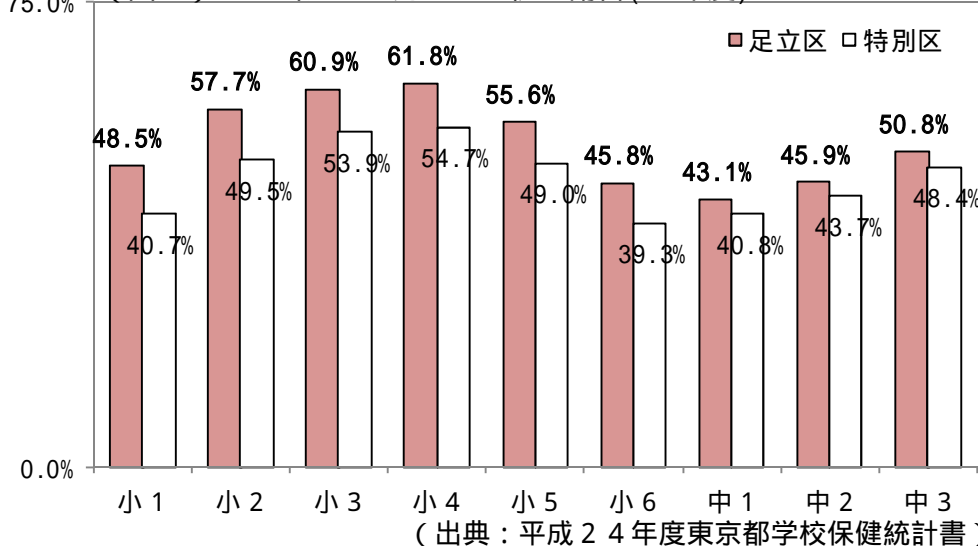


(図1・図2 出典:東京の歯科保健)

(図2) 保育園のむし歯のある子の割合(24年度)



(図3) むし歯がある児童・生徒の割合(24年度)



(出典:平成24年度東京都学校保健統計書)

(表1) 23区におけるむし歯がある小学生の割合(%) (24年度)

	小1		小2		小3		小4		小5		小6	
1	中央区	27.80	中央区	35.50	中央区	39.78	中央区	38.87	千代田区	33.81	中央区	24.40
2	千代田区	28.61	千代田区	36.54	千代田区	42.25	千代田区	41.58	中央区	34.24	千代田区	28.05
3	品川区	33.63	世田谷区	42.23	文京区	46.63	世田谷区	48.97	世田谷区	42.59	世田谷区	32.93
4	練馬区	34.19	文京区	43.89	豊島区	48.00	江東区	50.49	豊島区	43.63	中野区	33.15
5	世田谷区	34.89	品川区	44.01	世田谷区	48.33	豊島区	50.58	練馬区	45.80	文京区	34.10
6	豊島区	35.12	練馬区	44.18	江東区	48.62	練馬区	51.14	江東区	45.86	品川区	34.23
7	港区	36.74	中野区	46.35	練馬区	50.01	文京区	51.16	品川区	46.06	目黒区	34.66
8	目黒区	37.67	大田区	47.53	目黒区	50.22	目黒区	51.60	文京区	46.19	豊島区	35.05
9	江東区	37.84	目黒区	47.59	品川区	50.94	中野区	52.03	中野区	46.49	練馬区	35.32
10	中野区	38.21	江東区	48.17	中野区	51.14	品川区	52.10	港区	47.19	港区	35.95
11	墨田区	39.59	豊島区	48.47	港区	53.35	大田区	53.58	目黒区	47.89	江東区	37.29
12	渋谷区	40.30	港区	48.78	特別区	53.92	特別区	54.71	荒川区	49.01	大田区	37.67
13	特別区	40.71	墨田区	49.39	大田区	54.86	港区	54.88	特別区	49.03	荒川区	38.14
14	杉並区	41.14	特別区	49.54	台東区	55.07	荒川区	55.33	大田区	49.36	台東区	38.88
15	文京区	41.64	北区	50.70	荒川区	55.21	杉並区	55.39	台東区	49.43	特別区	39.27
16	荒川区	41.68	台東区	50.99	板橋区	55.41	板橋区	56.11	新宿区	49.50	新宿区	41.56
17	大田区	42.03	杉並区	51.31	渋谷区	55.96	渋谷区	57.13	杉並区	49.93	北区	42.00
18	台東区	44.03	荒川区	52.36	杉並区	56.02	台東区	57.28	板橋区	50.86	渋谷区	42.10
19	北区	44.31	渋谷区	52.43	墨田区	57.02	墨田区	57.33	江戸川区	51.31	墨田区	42.69
20	板橋区	44.43	江戸川区	53.60	北区	57.49	北区	57.91	墨田区	52.36	杉並区	42.73
21	江戸川区	45.36	板橋区	53.62	葛飾区	58.39	江戸川区	58.08	渋谷区	53.87	江戸川区	43.02
22	新宿区	46.26	新宿区	54.79	江戸川区	58.49	新宿区	59.40	北区	53.96	板橋区	43.38
23	葛飾区	47.70	葛飾区	56.85	新宿区	59.04	葛飾区	61.11	足立区	55.58	足立区	45.79
24	足立区	48.52	足立区	57.69	足立区	60.85	足立区	61.79	葛飾区	56.02	葛飾区	47.35

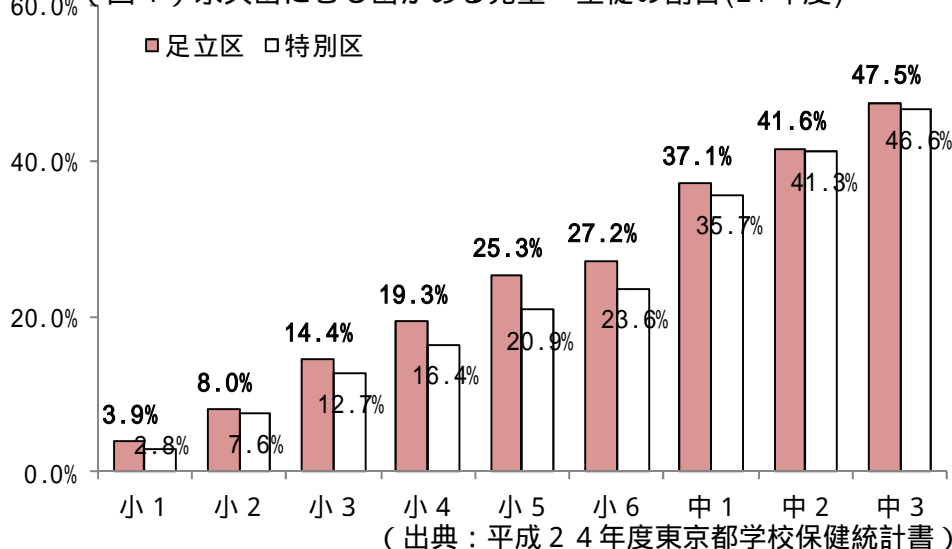
(出典：平成24年度東京都学校保健統計書)

(2) 永久歯のむし歯

小・中学生の永久歯にむし歯のある児童・生徒の割合

永久歯は、6歳ごろから生えはじめ、12歳ごろに生えそろういます。足立区の永久歯にむし歯がある児童・生徒の割合は、特別区平均と比較して高くなっています(図4)。

(図4) 永久歯にむし歯がある児童・生徒の割合(24年度)



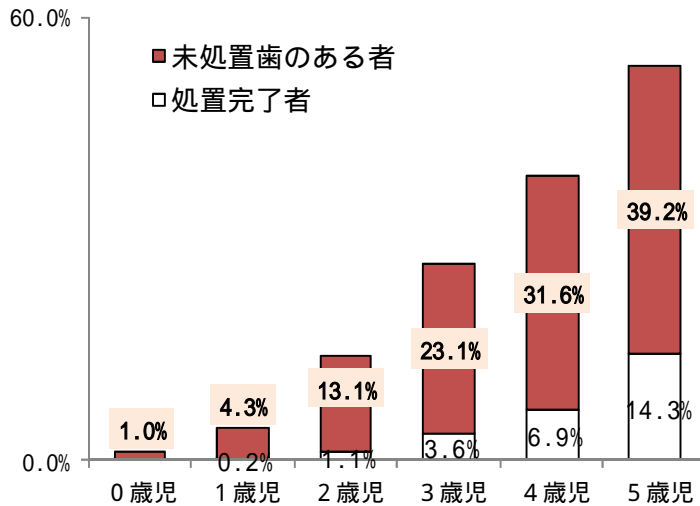
課題2 むし歯を放置している子どもが多い

(3) 未処置歯がある園児・児童・生徒の状況

未就学児で未処置歯がある子どもの割合は、年齢が上がるごとに増加しています(図5)。

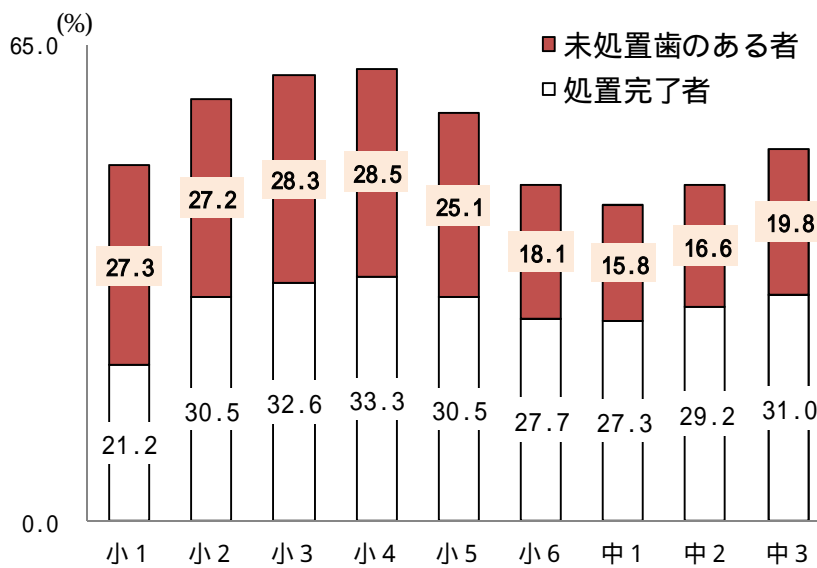
学齢期は、小学校4年生までその割合が増加傾向にあり、永久歯が生えそろう頃の中学校1年生は少なくなります、その後再び増加します(図6)。

(図5) 未処置歯のある園児の割合(24年度区立保育園)



(出典：平成24年度足立区立保育園歯科健診結果)

(図6) 小・中学生の未処置歯のある児童・生徒の割合(24年度区立小・中学校)



(出典：平成24年度東京都学校保健統計書)

課題3 むし歯の初期症状や歯肉に軽度の炎症がみられるなど、経過観察が必要な子が多い

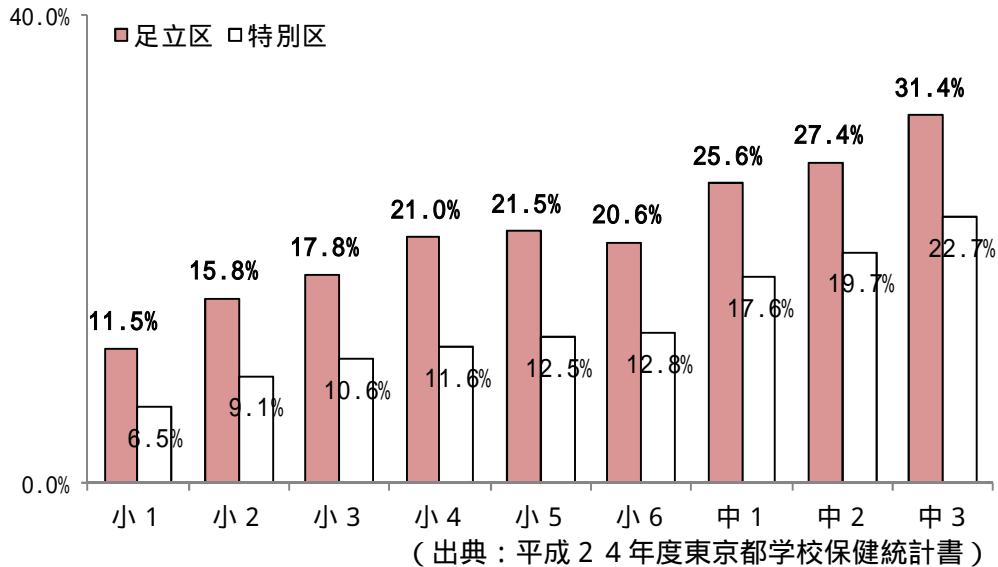
(4) 経過観察が必要な児童・生徒の状況

小・中学生の要観察歯(CO)のある児童・生徒の割合

特別区平均と比較して、すべての学年で要観察歯(CO)のある児童・生徒の割合が高い状況です(図7)。

要観察歯(CO)とは、視診でむし歯と判断できないが、むし歯の初期症状を疑う所見を有するもの

(図7) 小・中学生の要観察歯(CO)のある児童・生徒の割合(24年度)



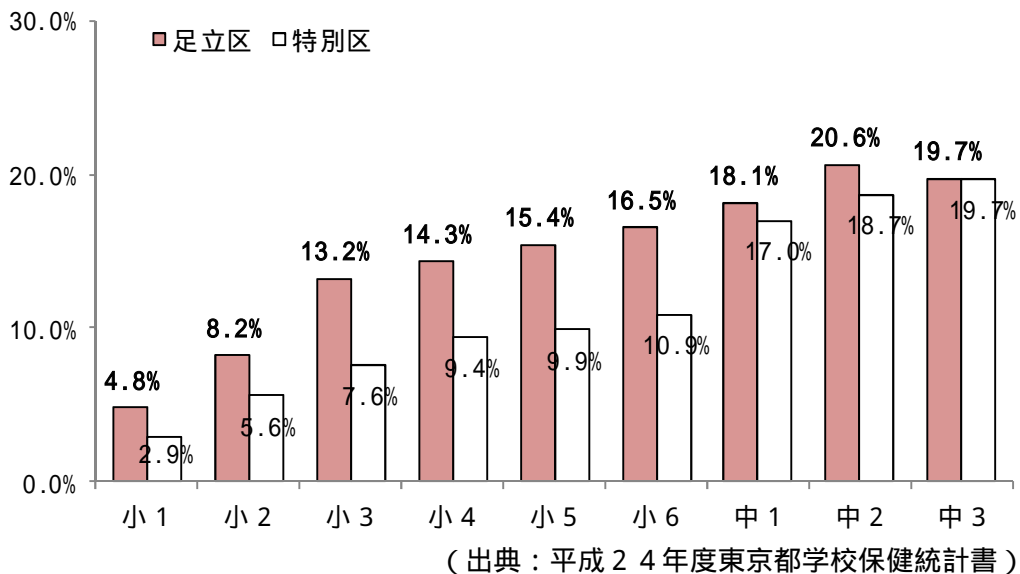
歯肉に所見のある児童・生徒の割合(G・GO)

すべての学年で、歯肉に所見のある児童・生徒の割合が特別区平均より高くなっています(図8)。

Gとは、歯周疾患の症状がある者

GOとは、歯肉に軽度の炎症がある者で、定期的な観察が必要な者

(図8) 小・中学生の歯肉に所見(G・GO)のある児童・生徒の割合(24年度)



2 成人の歯の健康状況

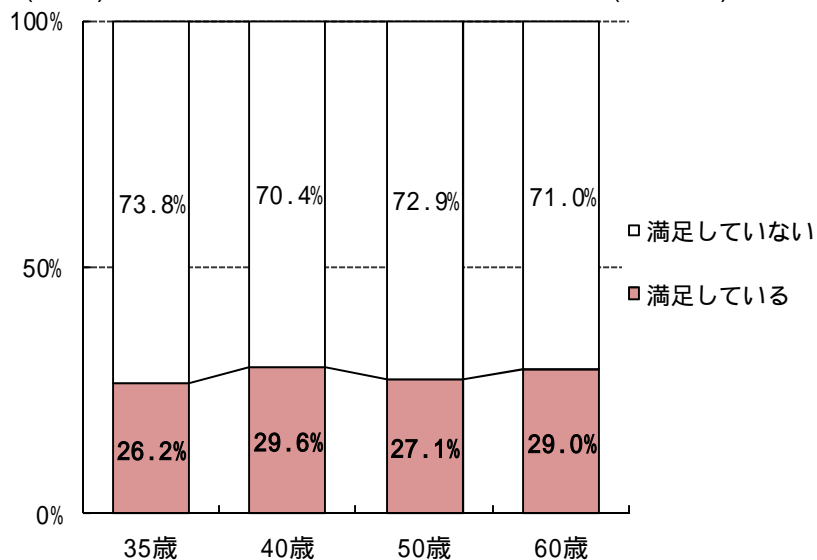
子どもだけでなく、成人の歯科口腔保健にも憂慮すべき点があります。

課題1 自分の歯と口の健康状態に満足している人やよく噛んで食べる人の割合が少ない

(1) 歯と口の健康状態の満足度

自分の歯と口に満足している人は2割～3割と少ない状況です(図9)。

(図9)自分の歯と口に満足している人の割合(25年度)

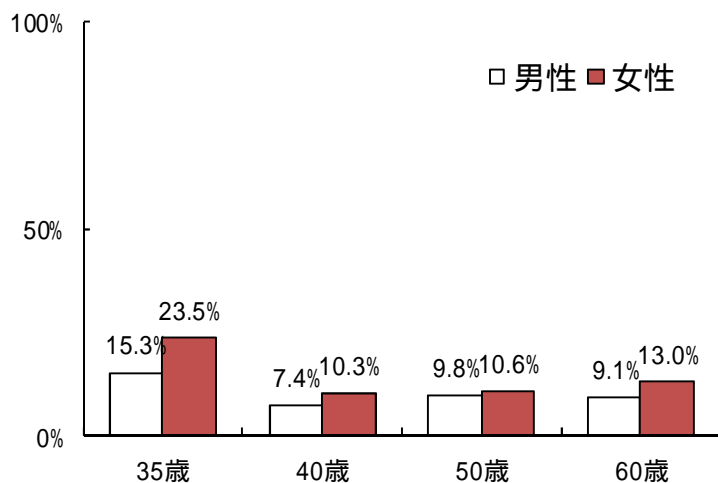


(出典：平成25年度足立区35歳健診・成人歯科健診結果)

(2) よく噛んで食べている人の割合

よく噛んで食べていると答えた人は、35歳が約20%、40歳・50歳は、約10%と低い割合になっています。また、すべての年齢で女性より男性が低い割合です(図10)。

(図10)よく噛んで食べる人の割合(25年度)



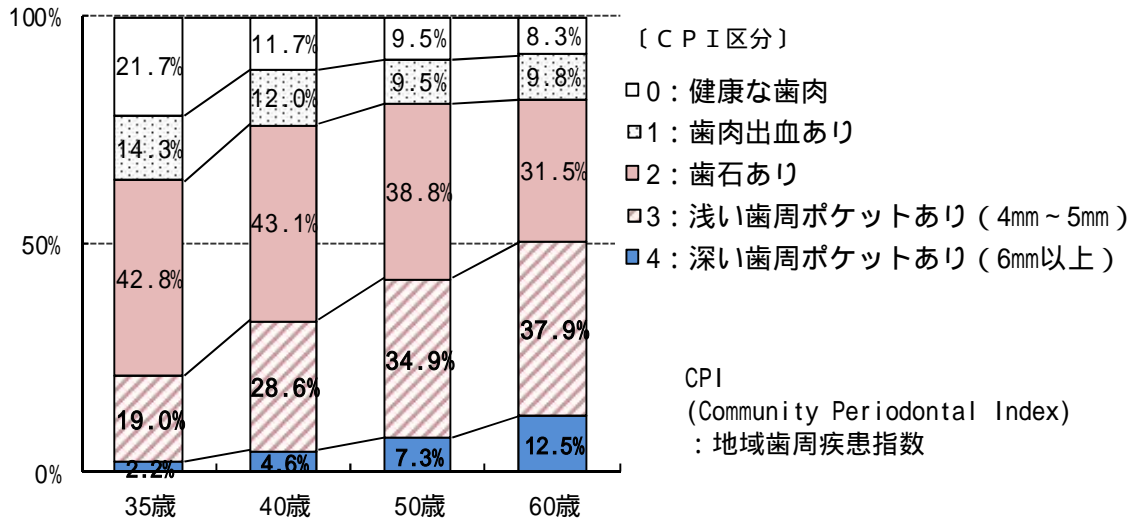
(出典：平成25年度足立区35歳健診・成人歯科健診結果)

課題2 年代が上がるごとに、歯肉に深いポケットがある人の割合が増加

(3) 歯肉にポケットがある人の割合

年代が上がるごとに、歯肉にポケットがある人(CPI区分3、4)の割合が増加しています(図11)。

(図11) 歯周病の進行状況(25年度)



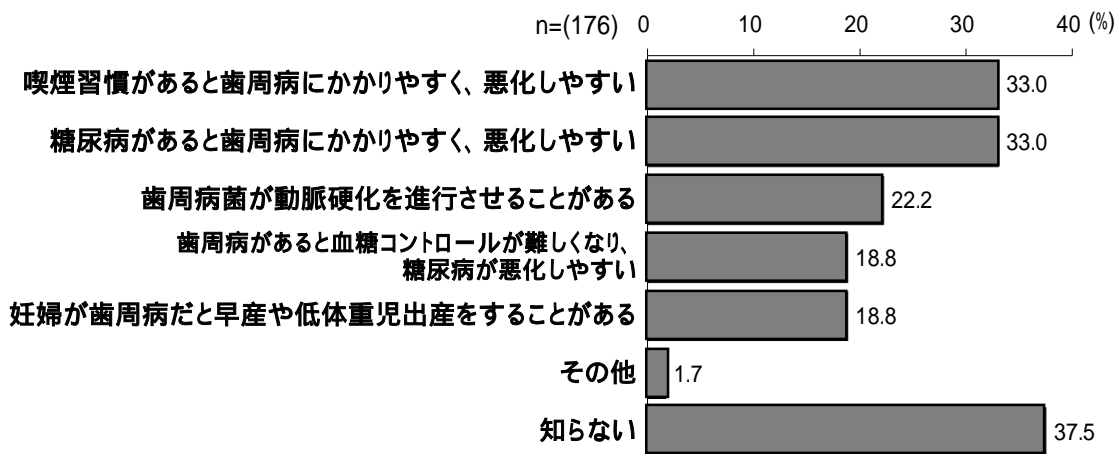
(出典：平成25年度足立区35歳健診・成人歯科健診結果)

課題3 歯周病が身体に及ぼす影響を知っている人が少ない

(4) 歯周病と糖尿病等に関する知識の普及状況

歯周病が糖尿病や心臓病・低体重児出産など全身に多くの影響を与えることを知っている区民は、まだ少ない状況です(図12)。

(図12) 歯周病と全身の健康についての認知状況(25年度)



(出典：平成25年度第2回足立区政モニターアンケート)

第4章 歯の健康から進める糖尿病対策

1 対策の展開

第3章の「足立区民の歯の健康実態」をふまえ、子どもの頃からのむし歯予防、若い世代の歯周病予防、よく噛んで食べる習慣づくりに取り組んでいく必要があります。

足立区糖尿病対策アクションプラン・歯科口腔保健対策編は、「子ども対策」「若い世代の歯周病対策」に重点的に取り組み、健康な歯と歯肉で「野菜からよく噛んで食べる区民」を増やし、糖尿病予防と健康寿命の延伸を目指します（表2）。

表2 足立区糖尿病対策アクションプランにおける歯科口腔保健対策の展開

		歯科口腔保健の課題		
		(1)むし歯予防	(2)歯周病重症化予防	(3)よく噛む習慣づくり
糖尿病対策アクションプラン	幼児期から良い生活習慣づくり	0～15歳の歯科口腔保健対策 <ul style="list-style-type: none"> ・生えはじめの乳歯・永久歯のむし歯を予防する（こんにち歯ひろば事業・6歳臼歯育成事業の推進） ・未就学児の歯科健診体制の整備 ・未処置歯をもつ子どもの割合の減少（歯科健診票等の変更による受療勧奨の強化） ・規則正しい食習慣づくりや歯みがき習慣の定着（各保育園、幼稚園、小・中学校と連携した取り組み、「足立区版・歯みがきマニュアル」の作成） ・学齢期、思春期の歯肉炎予防（小・中学校と連携した歯肉炎予防の取り組み） 		<ul style="list-style-type: none"> ・食べる機能の育成 ・野菜からよく噛んで食べる習慣づくりの推進
	重症化予防	歯周病の重症化予防と糖尿病予防 <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代から歯周病を予防する（歯科健診の実施と予防対策強化） ・歯周病と糖尿病をはじめとする全身との関係の啓発 ・かかりつけ歯科医と定期的な歯科管理の推進 ・医科歯科連携の推進（歯科医師会・医師会連携による重症化予防） 		<ul style="list-style-type: none"> ・野菜からよく噛んで食べる習慣づくりの推進 ・8（歯ち）がつく日はかむカムデーの啓発 ・スマイルアップ あだちちゅうりっぷ体操の啓発
歯科口腔保健	野菜を食べる野菜から食べる			
	環境の整備	関係機関等との連携と歯科口腔保健を担う人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関、団体等との連携強化 ・歯科口腔保健に関わる人材（専門職）のスキルアップ ・歯の健康づくりを考える区民の育成（健康づくり推進員・いい歯ねあだち等） 		

2 重点的な3つの取り組み

歯科口腔保健の課題解決のため、下記の3つを柱として対策を進めます。

- (1) 0～15歳の歯科口腔保健対策
- (2) 歯周病の重症化予防と糖尿病予防
- (3) 関係機関等との連携と歯科口腔保健を担う人材育成

(1) 0～15歳の歯科口腔保健対策

生えたての歯は特にむし歯になりやすいため、子どもの頃のむし歯予防がとても重要です。そのためには、保育園、幼稚園、小・中学校、学童保育室、保健総合センター等、地域の子育てに関わる施設が連携して、適切な歯みがきやだらだら食べない食習慣など、子どものうちから規則正しい生活習慣づくりに継続して取り組む必要があります。

【目標】 健康な歯と歯肉でよく噛んで食べる子を増やす

【主な指標】 むし歯のない子どもの割合

指標	現状値 (平成24年度)	目標値 (平成34年度)
3歳	84%	90%
6歳(年長)	47%	70%
10歳(小4)*永久歯	81%	85%
13歳(中1)*永久歯	63%	70%

(出典：東京の歯科保健、東京都学校保健統計書)

歯肉に所見のない子どもの割合

指標	現状値 (平成24年度)	目標値 (平成34年度)
10歳(小4)	86%	90%
13歳(中1)	82%	84%

(出典：東京都学校保健統計書)

【具体策】 未就学児の歯科健診体制を整備する

・乳歯のむし歯が増えやすい4～6歳(対象 約1万7千人)の時期に子どもが年に1回は歯科健診を受診する環境をつくり、むし歯予防の取り組みにつなげていく(次ページ 図13)。

・各施設で使用する歯科健診票および結果票の統一や結果集計の協力体制を構築し、各関係機関と子どもの健康実態を共有し、対策を検討する。

受療が必要な子どもを確実に歯科医療機関につなげる

・各保育園、幼稚園、小・中学校、保健総合センターの歯科健診結果から、治療や相談が必要な子どもへの受療勧奨を強化し、未処置歯を放置している園児・児童を減少させる。

・歯科医院受診につながらない子どもは、「ハイリスク児」として複数回勧奨するほか、他機関と情報を共有するなど、積極的に支援していく（図14）。

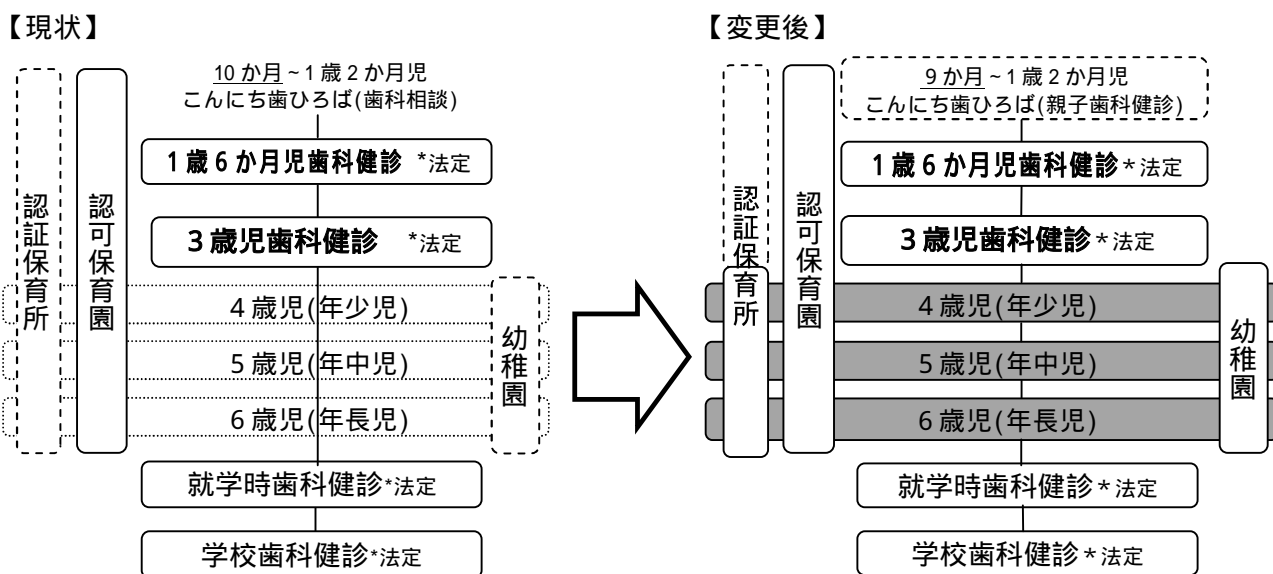
歯みがきや規則正しい食習慣の定着を目指す

・乳幼児期～学童期、思春期の各発達段階に沿って「適切な歯みがきや規則正しい食習慣」が身につくよう、歯みがきマニュアル等を活用し、各関係機関で継続的な取り組みを展開する。

・「6歳臼歯（第一大臼歯）」や「歯肉炎予防」をテーマに、体験教室を実施し、健康な歯や歯肉でよく噛んで食べる大切さを啓発する。

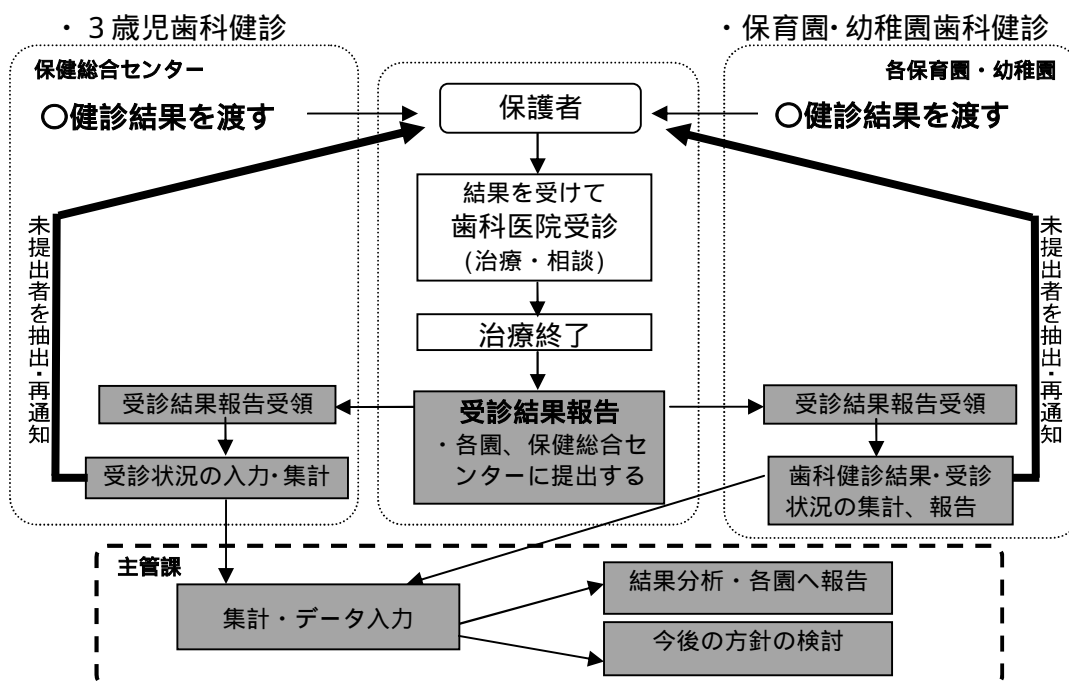
（図13）4～6歳児の歯科健診実施イメージ

任意実施 全数実施 新規の取り組みに網掛け



（図14）歯科健診実施後・受診勧奨フロー図

新規の取り組みに網掛け



(2) 歯周病の重症化予防と糖尿病予防

歯周病により糖尿病のコントロールが不良になり、同時に歯周炎も進行していくという悪循環に陥ります。一方、歯周病の治療を行うことにより、糖尿病が改善されるなど、歯周病と糖尿病は相互関係にあります。

【目標】 若い世代から歯周病予防に取り組む区民を増やす

【主な指標】 進行した歯周病のない人の割合

指標	現状値 (平成 25 年度)	目標値 (平成 34 年度)
35 歳	79 %	82 %
40 歳	67 %	75 %
50 歳	58 %	65 %

(出典：平成 25 年度 35 歳健診・成人歯科健診結果)

歯周病と糖尿病が相互関係にあることを知っている区民の割合

指標	現状値 (平成 25 年度)	目標値 (平成 34 年度)
35 歳	33 % 区政モニター	40 %
40 歳		40 %
50 歳		40 %

(出典：平成 25 年度第 2 回足立区区政モニターアンケート)

- 【具体策】
- 若い世代から適切な歯みがきやかかりつけ歯科医での定期的な歯科管理を受ける習慣づくりを進める。
 - 歯周病が糖尿病をはじめとする全身の健康と深く関係していることや「野菜からよく噛んで食べる大切さ」を医師会・歯科医師会等と連携して、広く啓発する。

(3) 関係機関等との連携と歯科口腔保健を担う人材育成

歯科口腔保健対策を効果的に進めるためには、保育園、幼稚園、小・中学校等の保育士や看護師、教諭・養護教諭等と連携して、子どもおよび保護者に対して「歯みがきや規則正しい食習慣」「健康な永久歯の育成」等について継続的に働きかける仕組みづくりが必要です(次ページ 図 15)。

【目標】 子どもの成長に応じて、「歯と口の健康」を学ぶ環境がある

【主な指標】 給食後の歯みがき(毎日)に取り組む園や学校の割合

指標	現状値 (平成 25 年度)	目標値 (平成 34 年度)
認可保育園	93 %	100 %
幼稚園	56 %	
小学校	73 %	
中学校	27 %	

(出典：平成 25 年度 子どもの歯と口の健康づくりアンケート結果)

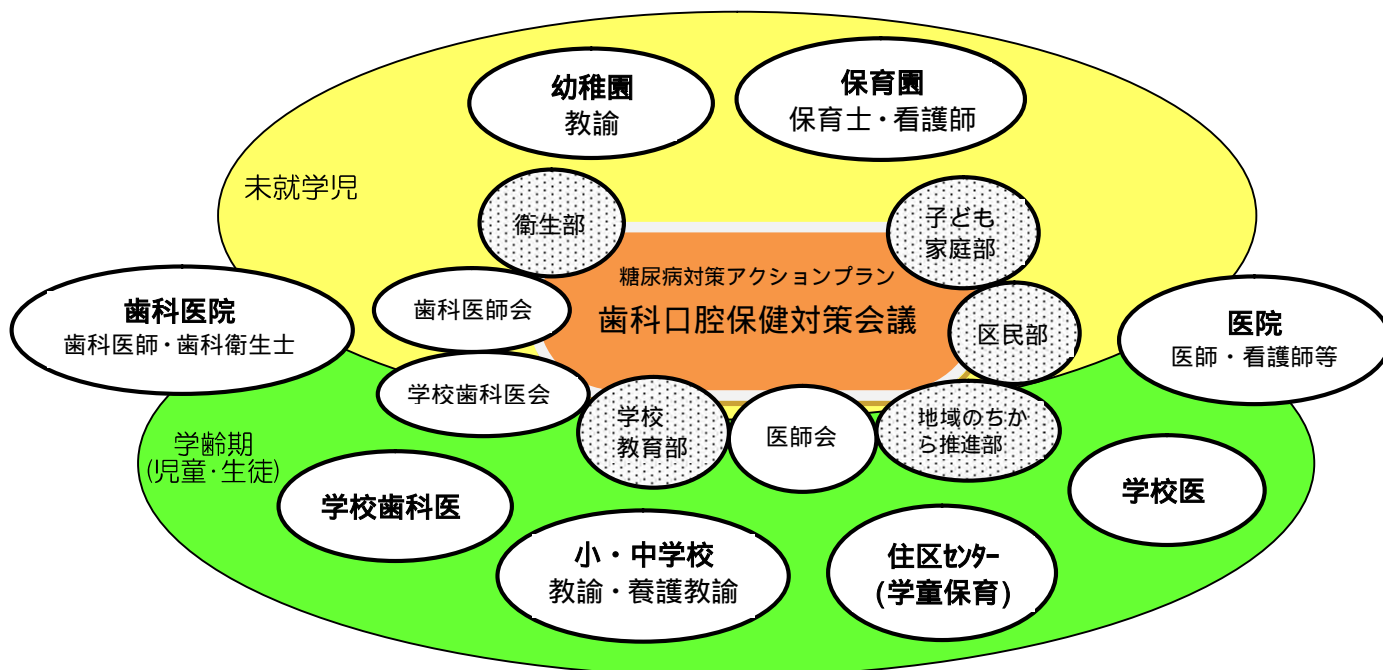
6歳臼歯の育成に取り組む園や学校の割合

指標	現状値 (平成25年度)	目標値 (平成34年度)
認可保育園	39%	100%
幼稚園	40%	
小学校	54%	

(出典：平成25年度 子どもの歯と口の健康づくりアンケート結果)

- 【具体策】
- 「あだち版・歯みがきマニュアル(仮称)」を作成し、給食後の歯みがきに取り組む保育園、幼稚園、小・中学校等を支援する。
 - 「6歳臼歯育成のためのガイドライン(仮称)」を作成し、家庭、保育園、幼稚園、学校、歯科医師会等が連携して生えだての永久歯を守る。
 - 各園・学校の取り組みが効果的に進むよう歯・口の健康に関する「専門職向け研修会」や各関係機関による「歯科口腔保健対策会議」等を開催し、課題の検討・情報交換を定期的実施していく。

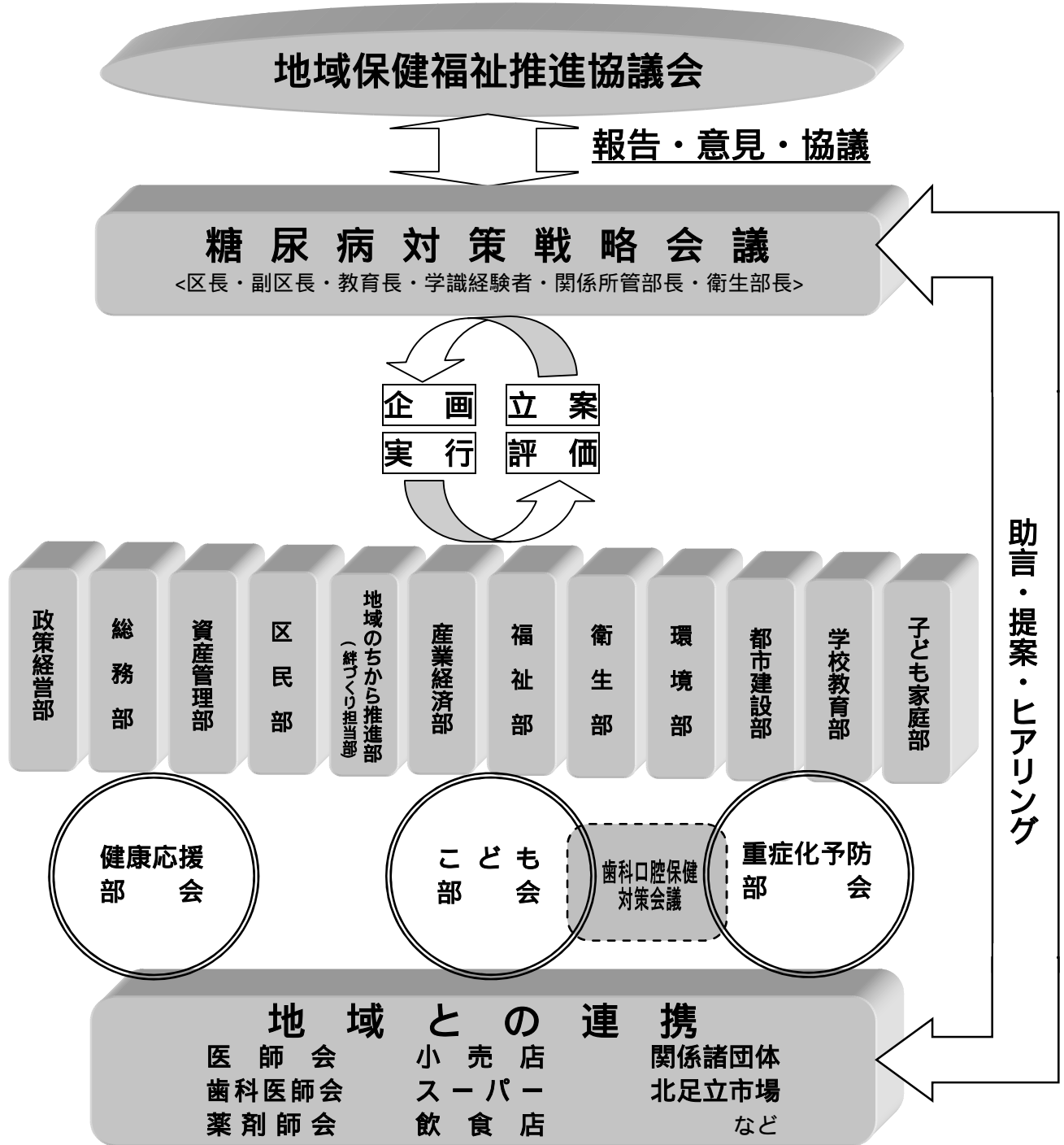
(図15)「0～15歳の歯科口腔保健対策」連携イメージ



3 歯科口腔保健対策の推進体制

「歯科口腔保健対策会議」において、目標を達成するための対策について検討を行い、地域保健福祉推進協議会、健康あだち21専門部会にて報告します。

糖尿病対策推進体制



足立区糖尿病対策アクションプラン・歯科口腔保健対策会議メンバー

庁外 公社)東京都足立区歯科医師会 足立区学校歯科医会 社)足立区医師会 学識経験者
 庁内 国民健康保険課 ジェネリック・保健事業推進担当課 住区推進課 幼児プロジェクト
 推進担当課 学務課 教育指導室 子ども家庭課 子ども・子育て施設課 衛生管理課
 保健予防課 保健総合センター

○事務局 ころとからだの健康づくり課

4 各取り組みの指標一覧

	指標	現状 (H25)	中間目標 (H28)	目標 (H34)	数字 抽出 元	参考値 1		
						現状	年度	
0～15歳の 歯科口腔 保健対策	むし歯のない子の割合	3歳	84.1%(H24)	85.4%	90%	2	87.1%	特 H24
		6歳(年長児)	46.5%(H24)	60%	70%	5	63.1%	特 H24
		7歳(小1)	51.5%(H24)	55%	65%	3	59.3%	特 H24
	6歳臼歯にむし歯がない児童の割合	9歳(小3)	88.2%(H26)	90%	92%	9	-	
	永久歯にむし歯がない児童・生徒の割合	10歳(小4)	80.7%(H24)	85%	87%	3	83.6%	特 H24
		13歳(中1)	62.9%(H24)	66%	70%	3	64.3%	特 H24
	甘い飲み物を毎日与えない保護者の割合	3歳	68.0%(H24)	75%	85%	6	72.3%	特 H24
	仕上げみがきを毎日している保護者の割合	3歳	96.4%(H24)	98%	100%	6	-	
		6歳(年長児)	-	72%	80%以上	11		
	かかりつけ歯科医をもつ子の割合	3歳	43.2%(H24)	50%	60%以上	6	45.0%	都 H21
	○フッ化物配合歯みがき剤を毎日使用している子の割合	3歳	53.8%(H24)	60%	70%以上	6	55.3%	都 H21
	学童期で歯肉に所見のない児童・生徒の割合	10歳(小4)	85.7%(H24)	86%	90%	3	90.6%	特 H24
	13歳(中1)	81.9%(H24)	83%	84%	3	83.0%	特 H24	
よく噛んで食べている児童の割合	10歳(小4)	-	60%	65%	9	59.8%	都 H21	
歯周病の 重症化予防 と糖尿病予防	○自分の歯と口の健康に満足している人の割合	35歳	26.2%	30%	40%	7		
		40歳	29.6%	33%	40%	8		
		50歳	27.1%	30%	40%	8		
		60歳	29.0%	33%	40%	8	57.9%*2	都 H21
	進行した歯周病のない人の割合	35歳	78.8%	80%	82%	7		
		40歳	66.8%	69%	75%	8	79.9%*3	都 H21
		50歳	57.7%	60%	65%	8		
		60歳	49.5%	54%	60%	8		
	1日に1回はていねいに歯をみがいている人の割合	35歳	16.2%	25%	40%	7		
		40歳	39.5%	43%	50%	8		
		50歳	40.4%	43%	50%	8		
		60歳	39.9%	43%	50%	8		
	週に1回以上歯間清掃具を使用する人の割合	35歳	30.9%	34%	40%	7		
		40歳	-	34%	40%	8	62.3%*3	都 H21
		50歳	-	34%	40%	8		
		60歳	-	34%	40%	8		
	定期的に歯科管理を受けている人の割合	35歳	33.0%	36%	40%	7		
		40歳	26.3%	32%	40%	8	59.6%*3	都 H21
		50歳	31.3%	34%	40%	8		
		60歳	33.6%	36%	40%	8		

	指標	現状 (H25)	指標	目標 (H34)	数字 抽出 元	参考値	
						現状	年度
歯周病の重症化予防と糖尿病予防	よく噛んで(一口30回程度)食べている人の割合						
	35歳	21.3%	25%	30%	7		
	40歳	9.4%	13%	20%	8		
	50歳	10.3%	13%	20%	8		
	60歳	11.6%	13%	20%	8	41.4%*4	都 H21
	歯周病と糖尿病の関係について知っている人の割合	33.0%			10	42.3%	都 H21
	35歳	-	35%	40%	7		
	40歳	-	35%	40%	8		
	50歳	-	35%	40%	8		
	60歳	-	35%	40%	8		
関係機関との連携と歯科口腔保健を担う人材育成	○保育園(所)・幼稚園歯科健診(4~6歳)の実施率						
	認可保育園	100%	100%	100%	4		
	認証保育所A	47.4%	100%	100%	4		
	幼稚園	91%	100%	100%	4		
	受診勧奨に取り組む園・学校の割合						
	認可保育園	61.3%	100%	100%	4		
	認証保育所A	33.3%	100%	100%	4		
	幼稚園	39.0%	70%	100%	4		
	小学校	100%	100%	100%	4		
	中学校	100%	100%	100%	4		
	受診報告書の提出率						
	認可保育園	-	90%	100%	4		
	認証保育所A	-	60%	80%	4		
	幼稚園	-	60%	80%	4		
	小学校	約60%	65%	80%	9		
	中学校	約40%	45%	65%	9		
	給食後の歯みがき(毎日)に取り組む園・学校の割合						
	認可保育園	92.5%	100%	100%	4		
	認証保育所A	76.2%	90%	100%	4		
	幼稚園	55.6%	75%	100%	4		
小学校	72.9%	90%	100%	4			
中学校	27.0%	70%	100%	4			
6歳臼歯の育成に取り組む園・学校の割合							
認可保育園	36.6%	80%	100%	4			
認証保育所A	4.8%	70%	100%	4			
幼稚園	40.0%	70%	100%	4			
小学校	54.3%	75%	100%	4			

足立区独自指標のため、比較数値なし

統計抽出元 1:衛生部事業概要 2:東京の歯科保健 3:東京都学校歯科保健統計 4:平成25年度子どもの歯と口の健康づくりに関するアンケート調査 5:区立保育園歯科健診結果 6:足立区3歳児歯科健診 7:足立区35歳健診 8:足立区成人歯科健診 9:区独自調査 10:平成25年度第二回足立区区政モニターアンケート 11:生活リズムアンケート調査(区立保育園)

1 参考値 都:東京都 特:特別区 2 80歳以上 3 35~44歳 4 65歳以上

足立区糖尿病対策アクションプラン 歯科口腔保健対策編 資料

【資料 1】

『足立区糖尿病対策アクションプラン・歯科口腔保健対策会議』名簿（平成26年度）

【庁外】

	所属	役職等	氏名
1	東京医科歯科大学大学院	教授	川口 陽子
2	(公社)東京都足立区歯科医師会	副会長	佐藤 和義
3	(公社)東京都足立区歯科医師会	理事	黒田 弘之
4	(社)足立区医師会	理事	杉浦 立
5	足立区学校歯科医会	会長	岡谷 進

【庁内】

	部	課名等	氏名
1	区民部	国民健康保険課長	鈴木 克己
2	区民部	ジェネリック・保健事業推進担当課長	坂田 光穂
3	地域のちから推進部	住区推進課長	倉本和世士
4	教育次長	幼児プロジェクト推進担当課長	市川 保夫
5	学校教育部	学務課長	望月 義実
6	学校教育部	教育指導室長	浮津 健史
7	子ども家庭部	子ども家庭課長	鳥山 高章
8	子ども家庭部	子ども・子育て施設課長	橋本 太郎
9	衛生部	衛生部長	大高 秀明
10		衛生管理課長	瑞野 尚子
11		保健予防課長	増田 和貴
12		こころとからだの健康づくり課長	馬場 優子
13		江北保健総合センター歯科保健担当	清水 久美
14		千住保健総合センター歯科保健担当係長	中村美智子

【事務局】

1	衛生部	こころとからだの健康づくり課健康づくり係長	伊東 貴志
2		同 歯科衛生士	鳥山 律子
3		同 歯科衛生士	原島 玲子
4		同 健康づくり係	綿谷 洋伸
5		同 糖尿病対策担当係長	小林 智春

足立区の子どもの歯と口の健康づくりに関するアンケート結果（平成 25 年度）

実施したアンケート調査

足立区の学校歯科保健の取り組みに関するアンケート結果

保育園・幼稚園における歯科保健活動に関するアンケート結果

調査時期	平成 26 年 2 月 5 日～2 月 18 日	
調査対象	区立小学校（70 校）	区立中学校（37 校）
	区立認定こども園（3 園）	私立幼稚園（53 園）
	区立保育園（40 園）	私立保育園（53 園）
	認証保育所（44 施設）	小規模保育室（17 室）
回答率	区立小学校（70 校 100%）	区立中学校（37 校 100%）
	区立認定こども園（3 園 100%）	私立幼稚園（45 園 85%）
	区立保育園（40 園 100%）	私立保育園（53 園 100%）
	認証保育所（30 施設 68%）	小規模保育室（9 室 53%）

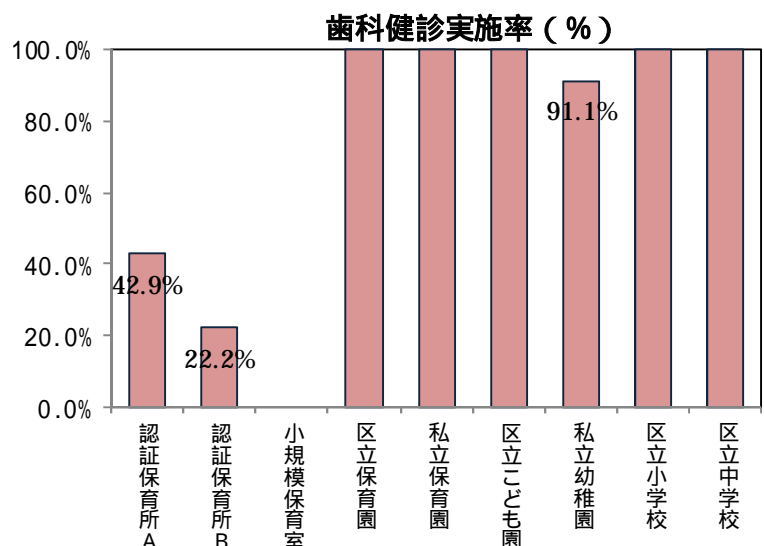
＜幼稚園・保育園の在園児の状況＞

・私立幼稚園	3 歳児～5 歳児
・こども園	1 歳児～5 歳児
・保育園（区立・私立）	0 歳児～5 歳児
・認証保育所 A	0 歳児～5 歳児
・認証保育所 B	0 歳児～2 歳児
・小規模保育室	0 歳児～2 歳児

1 歯科健診について

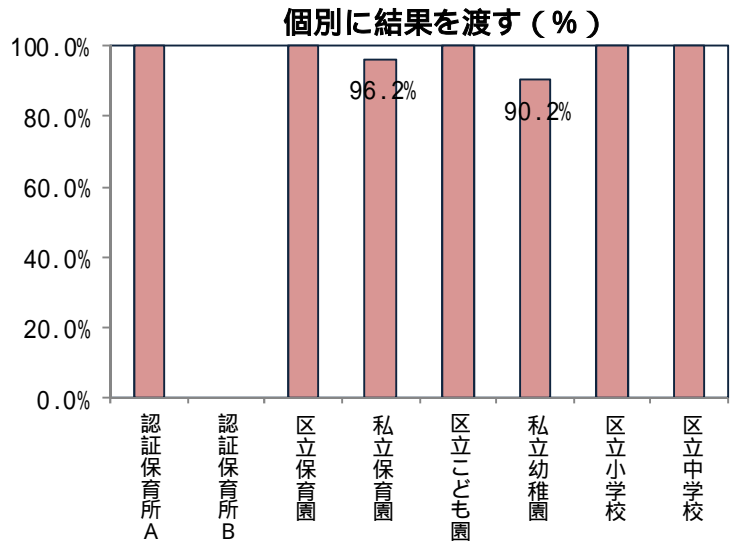
(1) 歯科健診実施状況

認可保育園(区立・私立)、区立認定こども園、小中学校の歯科健診実施率は 100%となっている。



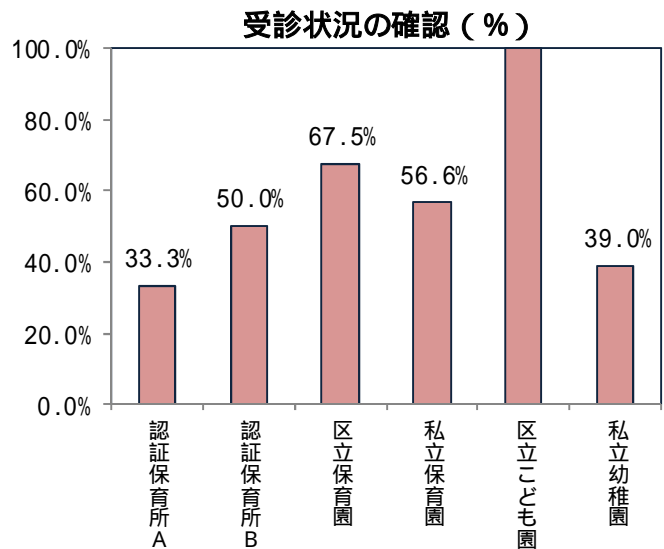
(2) 歯科健診後に実施しているもの
個別に結果を渡す

歯科健診を実施している施設は、
概ね個別に結果を渡している。



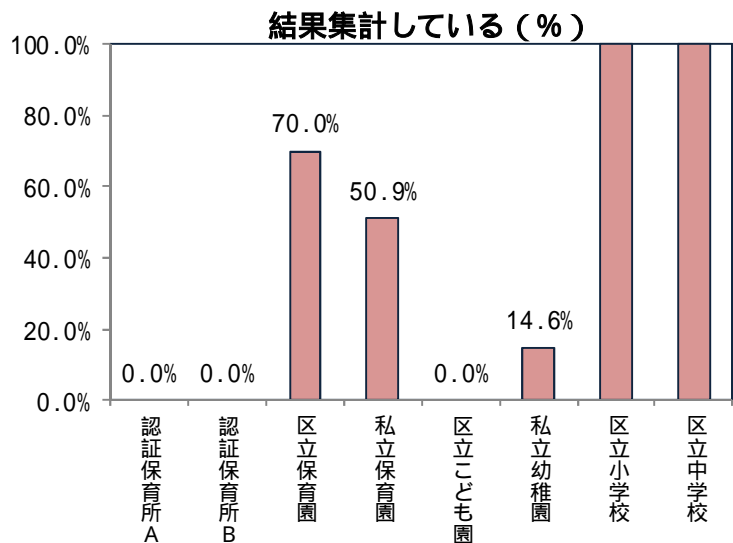
受診状況を確認している

受診状況を確認している施設は、
約30%から100%とばらつき
が大きい。



結果を集計している

歯科健診結果を集計している施
設は、区立・私立保育園で半数を
超えている。

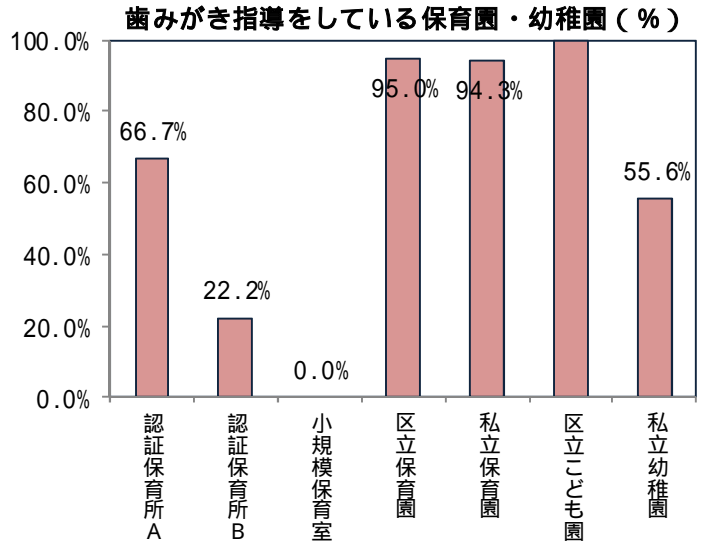


2 歯と口の健康について取り組んでいること

(1) 園児への歯みがき指導

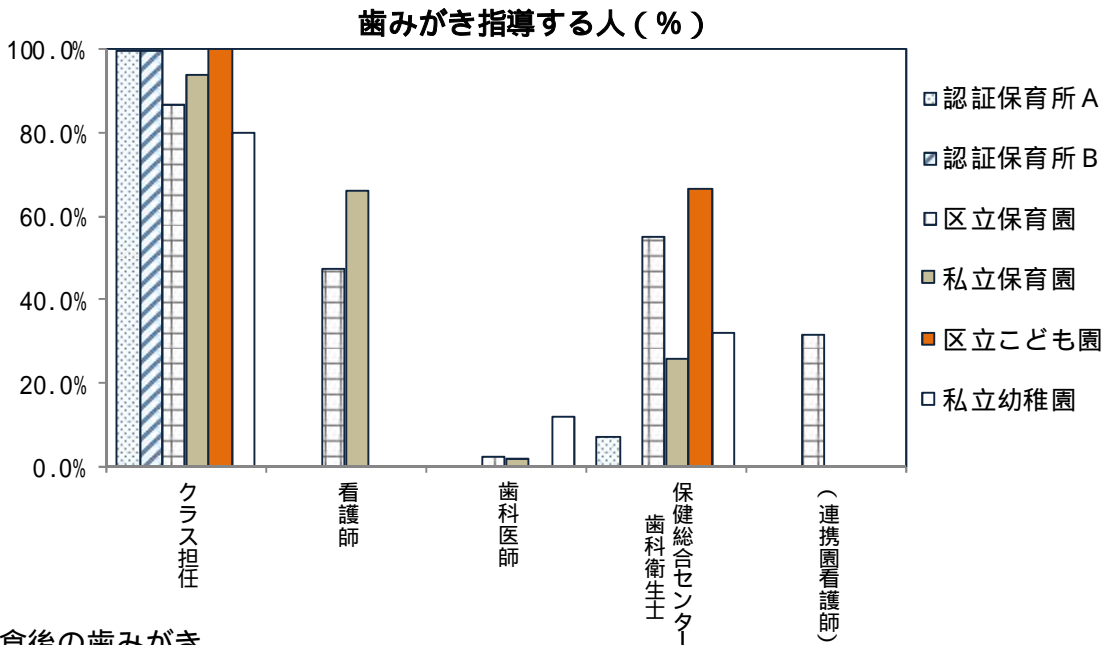
実施率

区立・私立保育園、区立認定こども園は、90%以上が歯みがき指導を実施している。



指導している人

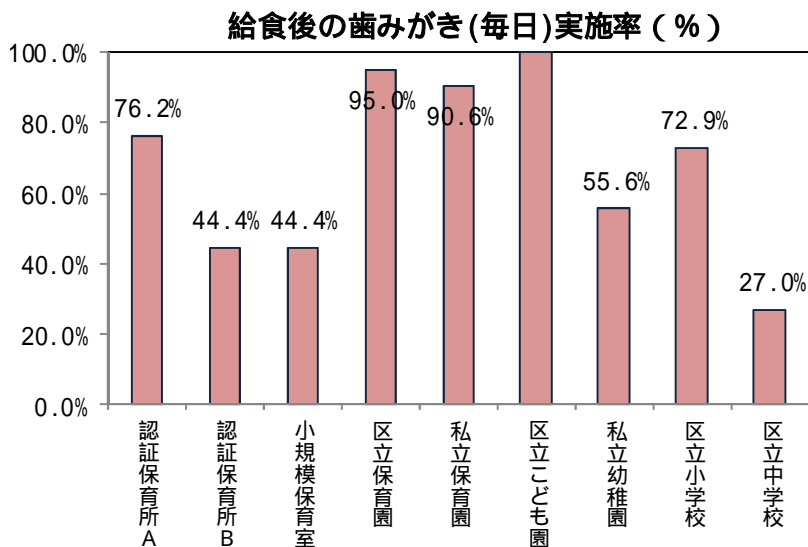
歯みがき指導しているのは、クラス担任が最も多い。



(2) 給食後の歯みがき

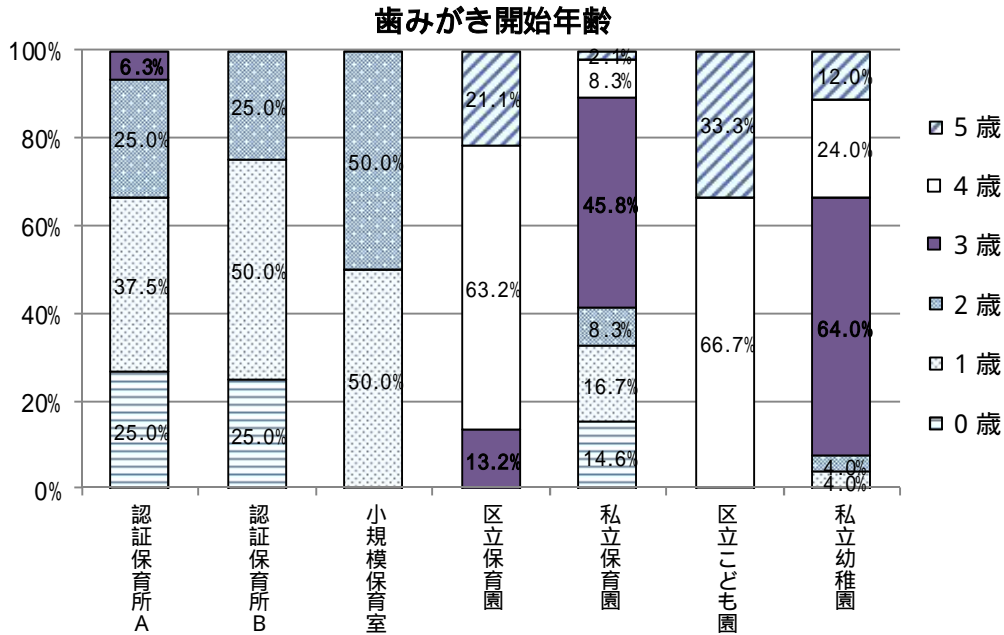
実施率

区立・私立保育園、区立認定こども園の実施率が高くなっている。



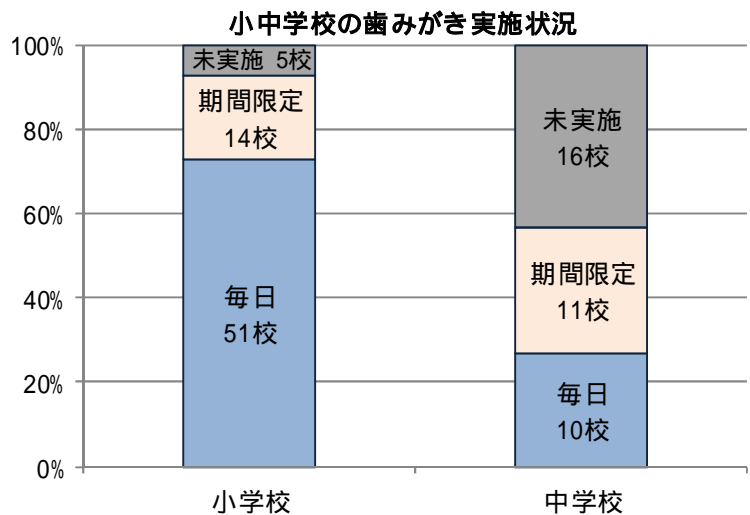
開始年齢(保育園・幼稚園)

0歳から5歳まで、歯みがきの開始年齢にはばらつきがある。



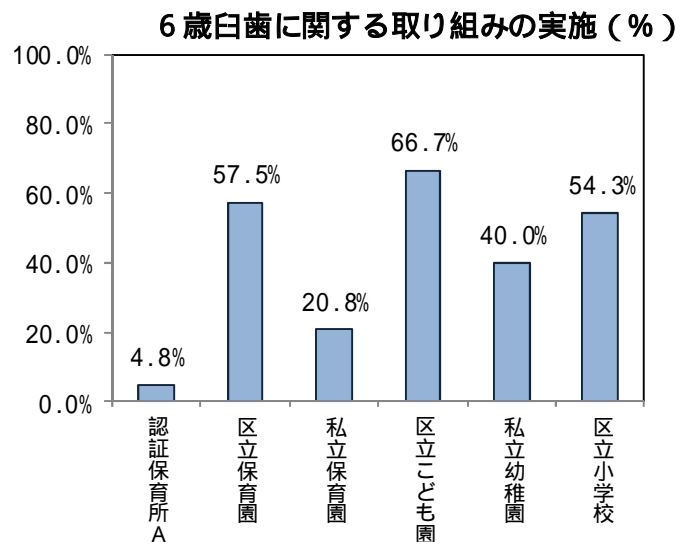
小中学校の歯みがき実施状況

小学校では、73%が毎日歯みがきを実施している。



(3) 6歳臼歯に関する取り組み実施している園・学校

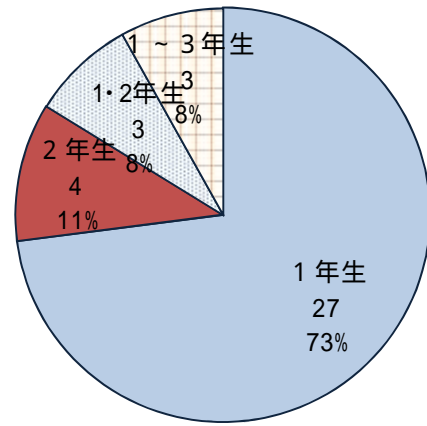
区立認定こども園、区立保育園の順に、割合が高くなっている。



小学校における実施学年

小学校における取り組みは、1年生が73%と最も多い。

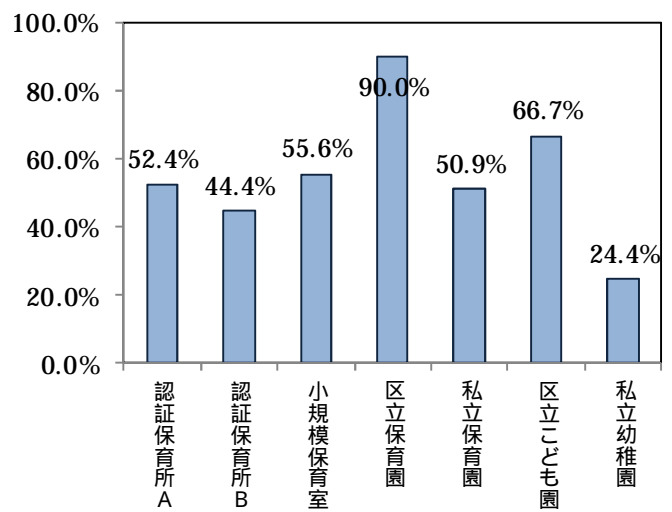
6歳臼歯に取り組んだ学年



(4) よく噛む習慣づくりに関する取り組み実施状況

区立保育園は、90%の園でよく噛む習慣づくりに取り組んでいる。

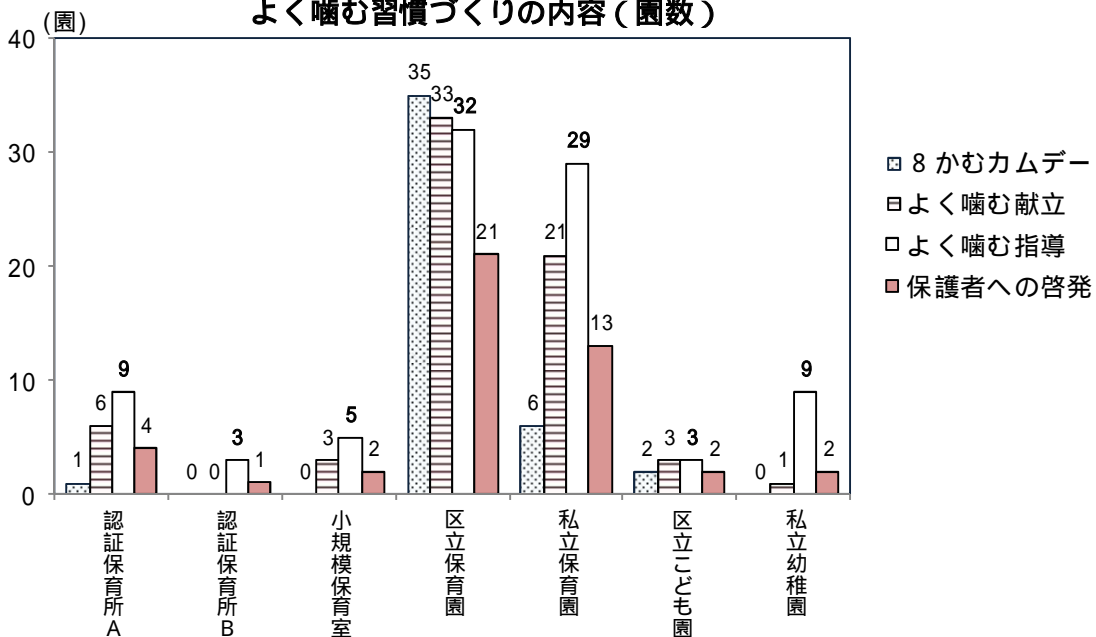
よく噛む習慣づくりに取り組む保育園・幼稚園(%)



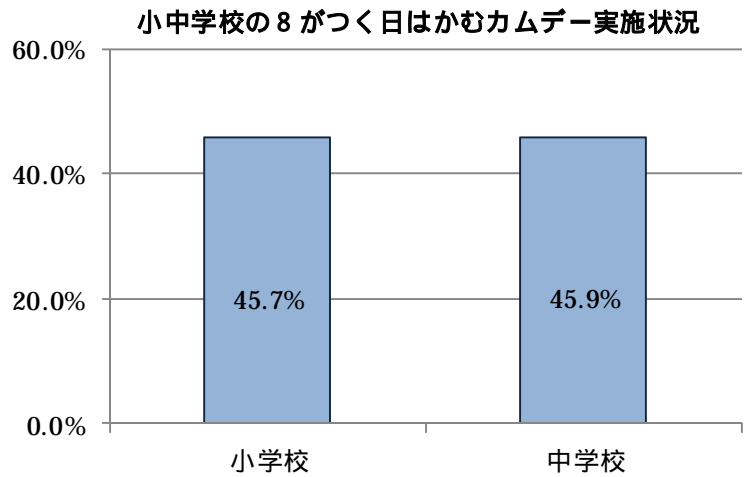
取り組んだ内容

実施している内容は、よく噛む指導、よく噛む献立が多い。

よく噛む習慣づくりの内容(園数)

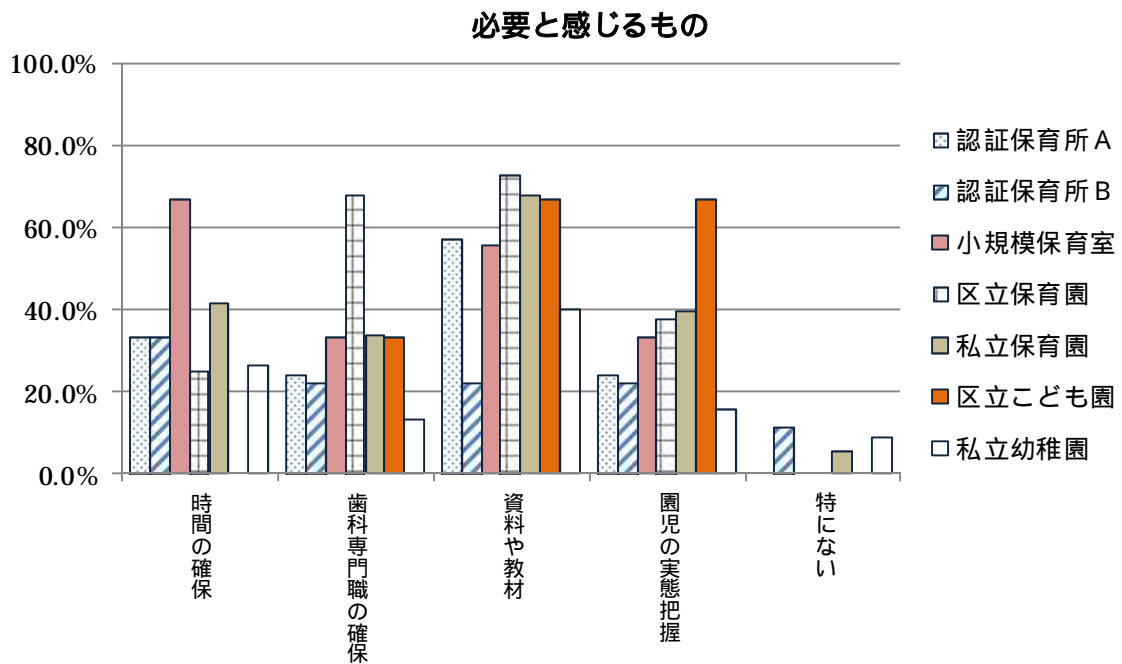


小中学校における『8がつく日はかむカムデー』の取り組み
 小中学校とも、半数近い学校で
 『8がつく日はかむカムデー』の
 取り組みを実施している。



3 歯科保健活動を実施するにあたり、必要と感じるもの（保育園・幼稚園）

保育園・幼稚園等で必要と感じるものは、資材・教材が最も多い。次いで、歯科専門職の確保、園児の実態把握が課題となっている。



歯科健診票【旧】

健診日 平成 年 月 日

保育園	園児名	性別	生年月日
		男 ・ 女	年 月 日

《歯式記入記号》

- ・現存歯： /
- ・喪失歯：
- ・処置歯：
- ・要抜去歯： x
- ・要観察歯： C 0（むし歯とは断定できないが初期病変の疑いあり）
- ・未処理歯： C（治療していない虫歯）

鍍銀歯は処置歯に含まず、未処理歯とする

上

7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7
		E	D	C	B	A	A	B	C	D	E		
右													左
		E	D	C	B	A	A	B	C	D	E		
7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7

下

実施医療機関 _____ 印 _____

..... 切り取り線

歯科健診結果のお知らせ【旧】

健診日 平成 年 月 日

 さんの健診の結果は次のとおりです。（該当に 印）

1. 健康です。むし歯はありません。油断しないで、定期的なチェックを受けましょう。
2. むし歯がありました。早いうちに、歯科医院で治療を受けましょう。
3. その他

実施医療機関 _____

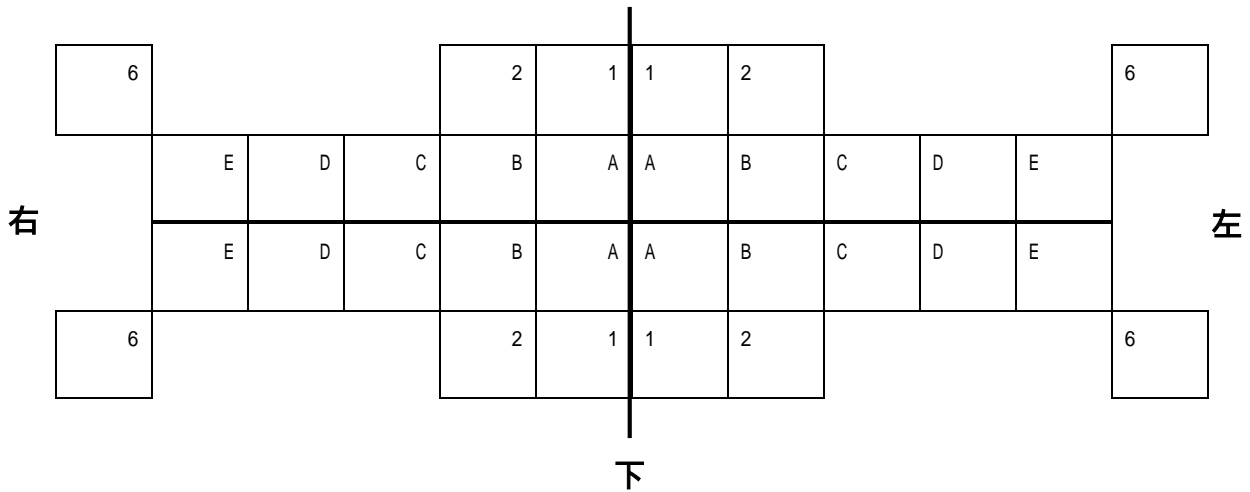
歯科健診票

健診日 平成 年 月 日

園名	園児名	性別	生年月日
	フリガナ	男 ・ 女	平成 年 月 日 ()歳児クラス

《歯式記入記号》

- ・現在歯 : /
- ・処置歯 :
- ・未処置歯 : C
- ・サホライド塗布歯 : ⊕
- ・要観察歯 : CO
- ・喪失歯 :
- ・要注意乳歯 : x
- ・ゆ合歯 : ゆ



- 歯垢 0・1・2
- 歯肉 0・1・2
- 歯列・咬合 0・1・2 (重度な前歯部反対咬合、臼歯部交叉咬合、開咬)
- その他 ()

実施医療機関名

歯科医師名

施設名

歯科健診結果のお知らせ

_____ さんの健診結果は下記のとおりでした。(該当に 印)

歯科健診の結果をお知らせします。2に○がついている方は、早めに治療や相談を受けてください。
なお、治療および相談がすみましたら、歯科医院に結果を記入してもらい、園に提出してください。

〔歯科健診の結果〕

1 健康です
今回むし歯や口の中に治療を必要とする病気はありませんでした

2 治療や相談が必要です。早めに歯科医院を受診してください

【むし歯・むし歯になりそうな歯・歯垢・歯肉炎】

その他(前歯部反対咬合、臼歯部交叉咬合、開咬、)

おやつは時間と量、回数を決め、寝る前の仕上げみがきを忘れずにしましょう

健診日 平成 年 月 日

実施医療機関

歯科医師名 _____

保護者の方へ：治療終了後に歯科医院で下記を記入していただき、切り取って保育園へ提出してください。

----- キ リ ト リ -----

治療済みのお知らせ(歯科)

施設長へ

お子さんの名前 _____

1 治療しました

2 指導しました

3 経過観察をします

治療・指導部位

処置・指導内容等

平成 年 月 日

歯科医院名

歯科医師名 _____

主治医の先生へ

治療、相談の結果をご記入ください。文書料は無料でお願いたします。足立区歯科医師会



**足立区糖尿病対策アクションプラン
「歯科口腔保健対策編」**

【編集】足立区衛生部こころとからだの健康づくり課
電話 03-3880-5433 FAX 03-3880-5602

【発行】平成26年9月